

主な意見とそれに対する区の考え方

No	主な意見の要旨	区の考え方
1	どのような在留資格の方がいるのかを把握することが、今後の取組を進める際に重要だと思う。	現状の把握・分析をしっかりと行った上で、取組を進めていきたいと考えている。
2	小・中学校で日本語支援をしているが、人事異動により、学校側との関係が途切れてしまうことがある。継続的な関係を築ける取組を行ってほしい。	教育委員会と連携し、支援者と学校との関係が途切れないような取組を検討していきたい。
3	学校においては、外国人の子どもより親の方が日本語が分からない人も多い。子どもだけではなく、親に対しても日本語学習支援についてもっと周知して欲しい。	教育委員会と連携し、外国人の保護者に対しても周知を行ってほしい。
4	学校で日本語がある程度話すことができる子どもでも、理解しているようではないなど、読み書きが不十分である場合があるなど、習熟度は簡単に測ることができない。できると見なされることで、必要な支援を受けられない子どももいるため、しっかりと習熟度を見極め、必要な支援を行う体制を作ってほしい。	教育委員会と連携し、外国人の日本語習熟度を正確に把握し、必要な学習支援につなげていく体制の整備を検討していきたい。
5	日本に来てすぐの外国人の子どもは、入学時期によっては、日本語が全く分からない状況ですぐ受験となってしまう。例えば、1学年下げて入学するなど、時間的に余裕を持たせた進学、就学ができるよう、日本語の習熟度に合わせた対応ができないか。	教育委員会と連携し、本人の日本語の習熟度に合わせた対応を検討していきたい。
6	やさしい日本語は、いかに外国人が理解できる表現を用いるかが重要であると思う。区民に対してもそのようなやさしい日本語の普及を進めて欲しい。	外国人の立場に立ちつつ、外国人が理解できる表現を行うなど、話の内容を理解してもらえるような、やさしい日本語の普及啓発を進めていきたい。

No	主な意見の要旨	区の考え方
7	両親がワーキングビザで日本に来て、後に子どもが就職する時期となった場合、就労ビザを取る必要があるが、基本的に大学を卒業しないと就労ビザがとれない。早い段階からケアをしてあげないといけないと思う。	円滑に就労ビザを取得し、就職できるよう、相談機会の充実などの支援をしていきたい。
8	ニュージーランドの交流について、交換交流をきっかけとした交流がその後、継続していないようである。継続していくような取組を行ってほしい。	ニュージーランド子ども交流事業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止となっていたが、来年度は実施を予定しており、国際交流協会などと連携し、両国にとってより良い交流となるよう検討していきたい。
9	外国人の出身国によっては、男性優位な社会であり、男性の許可がないと女性は日本語の学習機会を持ってない事もある。そのような方にも届くよう取り組んでほしい。	日本語学習支援を充実させ、認知度を高めるなかで、様々な方が参加できるような環境の整備も検討していきたい。
10	町会独自で交流事業など行う事は困難であるため、区の方から出向いて連携するなど行政の支援が必要である。	町会や学校などに出向くなど、連携を強めることで事業の効果を高めていきたい。
11	外国人によっては、交流事業へ参加しようとする意思があまり感じない人もいるので、働きかけが必要である。	交流事業を充実させていくなかで、外国人が参加しやすくなるような環境、機運を作り出していきたい。